

A. タタリノフ『レクシコン』注釈1 (A～B)

江 口 泰 生

(まえがき)

A. タタリノフ『レクシコン』については、ペトロワ (ПЕТРОВА) “《ЛЕКСИКОН》
РУССКО-ЯПОНСКИЙ Андрея Татаринова” の解題 (ИЗДАТЕЛЬСТВО
ВОСТОЧНОЙ ЛИТЕРАТУРЫ москва, 1962) に詳しい。それを紹介したのが村山
七郎『漂流民の言語』(吉川弘文館、1965)である。

村山『漂流民の言語』は素晴らしい業績であるが、その元となったペトロワ論文も大変面白い。
『レクシコン』の表紙に書いてある文章①と表紙の次ページのメモ②から辿っていった、本書の
成立事情を解き明かし、記録されている日本語について解明している。その過程はあたかも些
細な証拠から謎を解いていく良質のミステリーのようなものである。その面白さを十分には伝えてい
ないかもしれないが、江口泰生「ペトロワの『レキシコン』研究について(前)」『岡山大学文学部
紀要』60、江口泰生「ペトロワの『レキシコン』研究について(後)」『岡山大学大学院社会文化科
学研究科紀要』37もある。

①

にほんの
ひとさの
すけの
むすこ
A T
さんばち
ござり
ます

②

prés à la Conference 24 October 1782. (1782年10月24日の会議の記録)

ペトロワ論文では『レクシコン』の方言を説明する際に秋田方言のことに触れているが、具体

的にどこの方言を反映するかは限定していない。村山七郎は当初、「ア・タターリノフの「レクシコン」の東北方言について—オ・ペトロワさんに与える—」（『国語学』52、1963）では「出帆した港は酒田港であるということになる」と述べる。しかし、村山「ア・タターリノフの「レクシコン」の会話篇」（『国語学』55、1963）や1963年7月29日の東奥日報記事「ソ連で発見された下北の方言④」に「国立国語研究所の徳川宗賢氏が徳兵衛一行の漂流民の言語ではないかという意見を私に述べられ、これがきっかけとなって、ロシア側資料を詳しくしらべたところ、著者アンドレイ・タターリノフの父は徳兵衛配下に間違いなく、イルクーツク日本語学校教師たちがみな徳兵衛配下であることを見出した」とあるように、徳川宗賢の意見の結果、『漂流民の言語』の「佐井村出航多賀丸」に到達したのである。同様の指摘は高野明からもあったようだが（村山『国語学』55）、これらの引き当てがなかったならば、下北方言は浮上してこなかったかもしれない。

村山1965によれば『レクシコン』成立は以下のとおりである。1744年11月24日（延享元年）に青森県の南部佐井から多賀丸が出航（サノスケ含）した。その後、遭難し、1745年5月16日に千島第5島に漂着した。1752年にサノスケの子供A. タタリノフ（サンパチ）が誕生した。1765年にサノスケが逝去した。1765年にタタリノフがイルクーツクの日本語学校に入学した。1782年10月24日にA. タタリノフ著『レクシコン』がアカデミー会議に提出された。1782年以前の成立であることが判明し、その著者も明らかになったのである。

左欄に見出し語のロシア語、中央欄に対応する日本語がキリル文字で表記され、右欄にひらがなによる日本語が記載される。51枚。奥羽方言色が濃い、下北方言と限定した村山『漂流民の言語』には疑問の声もある。たとえば、北村誠一・佐藤和之「タタリーノフ『露日レキシコン』」（『文化における「北』』所収 弘前大学人文学部特定研究報告書、1989）や北村一親「18世紀のアンドレイ・タタリノフ露和語彙の研究（第2部）」『アリテス リベラレス』84（岩手大学人文社会科学部紀要、2009）である。実際問題としては言葉から地点を絞るのは非常に困難であり、村山の方法や主張には批判があるのはもっともなことであると思うが、筆者としては村山の主張どおり下北方言を反映している点は疑いなく考えている。

村山『漂流民の言語』では見出しロシア語の綴りは削られ、日本語訳のみが示されている。日本語部分はひらがな日本語、キリル文字日本語をローマ字化したものが掲載されている。

見出しロシア語を日本語訳した際には見事な解説がなされた箇所がある。32ページbに「рыбная（?…ヨメズ）。ть」とあって「аме、あめ」という日本語が書いてある。村山1965では「網」と訳す。おそらくロシア語「?。ть」を「сеть」（網）に同定したのであろう。優れた読みだと思う。こういう読みは容易には思いつかない。

また、33ページbに「смертный(死の)」という見出しロシア語があり「джйшй ішо、ちし イしゃう」と書いてある。ロシア語も日本語もはっきり読めるのだが、日本語がよく分からないところである。村山『漂流民の言語』は「十死一生」を宛てる。これなども筆者には到底思いつかない、非常に優れた案だと思う。

このように素晴らしい点もあるのだが、問題点もある。最大の問題は、見出しのロシア語綴

りがないことである。そのために、日本語が合っているのかどうなのか、確認がとれないために、用例を利用しようとしても常に不安があることである。

事実、ロシア語があるからこそ、日本語の意味が推定できることも多いのである。いくつか例を挙げよう。

村山『漂流民の言語』に「テゴ」(梃子、棒)とある。「梃子」のことだとすると、共通語が有声化した例にしか見えず、凡庸な例である。しかし実際には『レクシコン』2ページaに「ачагъ」というロシア語が掲げられ、それに「тего」(テゴ)という日本語が当てられ、「てこ」と平仮名で書いてある。現代ロシア語には「ачагъ」という語形はない。ゴンザの『新スラヴ日本語辞典』には「ачагъ」は「囲炉裏」という日本語で訳されており、現代語ロシア語では「очагъ」が「いろり」の意味である。現代語o→『レクシコン』aとなっている用例は多い。したがって見出しロシア語が「囲炉裏」に相当するものであることは間違いない。それを「てこ」(音声的には「テゴ」と訳したことになる。テゴは「囲炉裏」にある、鍋などをつりさげる部分(自在カギなど)の類を称したものではなかろうか。このような解釈はロシア語があるからこそ可能になると思われる。

村山『漂流民の言語』には「ホシャ」という単語が採録される。『日本方言大辞典』では青森方言では「乞食」の意味であるとし、「ほーしゃ願いますと言って歩いたところから「乞食」を指すようになった」と説明する。しかし、この資料では「寛大な」「慈悲ぶかい」という見出しロシア語の訳として用いられている。この資料では「乞食」の意味になる前の、「報謝」の原義を残しているのではなかろうか。幕末期佐賀の方言資料『伊勢道中不案内記』(初編一)でも「御報謝お願い頼み申す」の例がある。

村山『漂流民の言語』では用例が抜けている箇所がある。見出しのロシア語だけあって、キリル文字による日本語のない用例に集中するので、日本語がない場合、削除する方針であったと思われるが、日本語訳がないことにも意味を認めるべきであったと思われる。たとえば10ページbに「должность」(位置)という見出しロシア語があるが(ロシア語は「должность」参照。現代語o→『レクシコン』a)、『レクシコン』には日本語がない。ペトロワ論文では抽象的な語彙を訳すときに、複数の日本語を合わせて訳をする例が挙げられているが(全能、永遠、醸造所など)、「位置」などという単語(概念)はよほど日本語訳がしづらかったのだろうかと思像することもできる。

一方で、日本語訳があるのに欠落している箇所もある。「永遠」というロシア語に「ИздёмнагоД」という日本語が当てられているが、村山『漂流民の言語』では脱落している。

脱落によって貴重な用例が失われたかもしれない、という点もある。38ページb「укоряетъ(非難する)」に「одезгй шймасъ, おてつき します」(オデズ°ギ シマス° おてずきします)という日本語が当ててあるが脱落している。「非難」に対して「オテズキ」という日本語を当てるのは2例あり、このような言い方が実在したのではなかろうかと思わせる。

『日本方言大辞典』に「でずきはずき 人やものをあれこれひねくり回すさま。岩手県平泉108」や「でずくな 手いたずら。手遊び。また、よけいなことをすること」として長野県や新潟

県中頸城郡などに分布している。かつて「オテズク」という語形で下北方言に「人やものに無用の非難やちょっかいをする」意の動詞があったのではなかろうかと想像される。もしそうだとすると、大変、貴重な例を消失させてしまったということになる。

以上のように、この資料の見出しのロシア語を示し、それと日本語がどのように対応しているのか、日本語が信頼できるものなのか、できないものなのかを明らかにしたり、どれだけ意味不明の語彙を解消できるかによって、この資料の資料性が改めて確認できるのだと思う。

北村誠一・佐藤和之1989はペトロワ1962の写真を転載している。転載によって不鮮明になったが、写真を見ることができるのは大変有意義である。転載の理由としては、北村・佐藤1989の解説によれば東京大学史料編纂所のみの所蔵であり、転載してでも普及させることが重要であった旨が述べられている。また見出しロシア語の綴りも示されている。

さて筆者が見たのは九州大学三上文庫のものである。コピーしたのは四半世紀ほど前で、かねてから興味を抱いていて読みすすめていたが、『レクシコン』は大変、難しい資料であると思っている。第一に非常に文字が読み取りにくい。江口『ロシア資料による日本語研究』（和泉書院）でも読み違えた箇所があり、北村一親「18世紀のアンドレイ・タタリノフ露和語彙の研究（第2部）」『アリテス リベラレス』84（岩手大学人文社会科学部紀要、2009）で批判されている。

第二にロシア語を辞書で引いても出てこない単語が多い。その理由にはいくつかがあるが、この文献のロシア語は現代語共通語 o のものが a になっている箇所があり、この資料のロシア語の著しい特徴となっている。

2ページa「ачагъ」（囲炉裏）～現代ロシア語「очагъ」。

9ページa「галод」（飢餓）～現代ロシア語「голод」。

19ページb「камысаръ」（委員長官）～現代ロシア語「комиссаръ」。

20ページa「камвой обозъ」（荷馬車）～現代ロシア語「конвой обозъ」。

29ページa「полтара мсца」（一つ半の月）～現代ロシア語「полтора」。

おそらく発音のままに表記しているせいである。専門家ならばこうした綴りの違いも、発音からおおよその見当がつくに違いないと思うのだが、専門家でない筆者には困難な作業である。

次に前置詞や接頭辞を単語と合体させて表記してある場合があるので、そこを分解しなければならない。16ページbに「ікры уногъ」という見出し語がある。それに対応した日本語は「кобура、こふら」とあって、「コブラ」と読める。さて村山『漂流民の言語』では「икры」は「魚卵」、「укогъ」と写し、意味は不明とする。

しかし、次のように考えてみてはどうだろうか。「ікры」は「икра」（ふくらはぎ）の複数形、村山が「укогъ」と写したのは実は「уногъ」で、「у+ногъ」（「所有を表す前置詞+足」のように二語に分かれる、と考えるのである。つまり見出しロシア語部分は「足のふくらはぎ」=「ікры у ногъ」と読んではどうだろうか。こうするとコブラ（こむら返りなどのコムラ）という語形とも対応すると思う。このように前置詞と単語が一緒に書かれている場合があるので、辞書を引いても出てこない場合があるのである。

第三に日本語が難しい。特に東北方言に無知な筆者には難しい。もちろん村山『漂流民の言語』段階とは異なって、現在では『日本方言大辞典』や『日本国語大辞典』、各種方言辞典、あるいはネット検索が備わるので、そういうものを参照すれば簡単に解決できる語彙もあるのだが、そうでないものも多い。一例を挙げる。

9ページbに「громова стрела янунй やぬに」という例がある。ロシア語「громова стрела」は直訳すると「雷の矢」で、村山1965では「雷の矢」と訳すのみである。「やぬに」という日本語が何なのか、まったく不明であった。

さてロシア語の見出し語には形状の類似から「箭石・矢石」というロシア語の意味がある。



(北海道大学 総合博物館 3F 学術展示室 2014.10.17 江口撮影)

「ベレムナイト (Belemnite) 軟体動物、頭足類に属する絶滅海生化石動物のベレムナイト目 Belemniteda の総称。矢(箭)石類ともいう…化石として多く産出」(『平凡社世界大百科』2007版)。「化石としてよく残るのは…矢じり形をした鞘の部分」(『古生物学事典 第2版』朝倉書店2010)。「現生のイカに類似し…体の背部から先端にかけて鎌(やじり)型の殻を持っていた」(ウィキペディア)。

「громова стрела」は矢の形状をした化石のことであるなら、「ヤヌニ」の「ヤ」は「矢」、
「ヌニ」は「うに」、すなわち「石炭」(或いは「化石」)のことではなかろうか。

『本草綱目啓蒙』巻五「石炭 カラスイシ、イワキ、タキイシ、モヘイシ、イシズミ 筑前
イワシバ同上、馬石伊州、ウニ同上、ウジ江州、アブライシ播州」とあって、ウニ形が確認
できる。

さらに「伊州古山村(伊賀…江口注)ニテ石炭ヲ、ウニト呼。石ウニ・木ウニ・綿ウニ・縮(チ
ミ)ウニ・竹ウニ、土ウニノ品アリ。皆其形状ニ因テ名クルナリ」とあって、形状によって命名
することが行われたようである。

俳諧『ありそ海』(1695)春「伊賀の城下にうにと云ものあり、わるくさき香なり。香にほへ
うにほる岡の 梅のはなく芭蕉>」とある。ウニは伊賀特有方言のようにみえるが、近江に
はその同系とみられるウジがあり、芭蕉の俳句にも用いられているので、伊賀以外でも理解で
きた語彙ではなかろうか。

松岡玄達『本草綱目記聞 四巻』第一冊の石之部に「石炭(カラス石)越前(ママ……筑前か)福
岡ニアリ伊賀クラモチ村ニモ有り土人呼テウニト云フナリ」(国立国会図書館蔵本)とある。西
日本を中心に広く分布していた語形とも思われる。

「矢ウニ」はニの前のウが鼻音化し、「ヤヌニ」となったのではなかろうか。こうした例を確認
したうえで、あらためて『レクシコン』を通覧してみると、鼻音の前の単独母音が鼻音化してい
る例がたくさん見つかるのである。ビイドロ>ビンドロ、メイボニン>メンボニン(名簿人)、
ナイギ>ナンギ(内儀)など。『レクシコン』全体で「鼻音の前の単独母音が鼻音化する」という現

象を指摘できることになる。

これに類似した現象は中央語にも存在しないわけではない。ツカエ・マツル〜ツカンマツル(仕奉)、カラ・バセ〜カンバセ(容貌)、ヲモイ・ミル〜ヲモンミル(思慮)、ヲモイ・バカル〜ヲモンバカル(思量)、ライ・マウス〜ヲンマウス(追い回す)、ライ・マクル〜ヲンマクル(追いまくる)、などがそれである(岸田武夫『国語音韻変化の研究』1984、武蔵野書院)。後続音がバマ行の場合が多く、多くが形態素末に限られる。中央語では形態素末の単独母音がバマ行の前で撥音化して語の複合境界を示す、という形態音韻的な制限があったとみられる。中央語では語中の単独母音という環境よりも狭い範囲で生じていたかもしれない。

一方、この方言ではガダバナ行に及び、形態素の末尾であるか、語頭であるかを問わない点が決定的に異なる。複合境界を示すという形態音韻的な用法はなく、音韻現象であった可能性が高い。

このように一語を解釈するのに相当な労力を要する。その労力は体力的なこともあるが、文献学、ロシア語、日本語史、東北方言など、広い領域の情報も必要で、なかなかできないのである。

そこで本稿では、内容の質や程度はともかく、『レクシコン』が資料として活用できるように、ロシア語の見出し、キリル文字日本語、ひらがな日本語を翻字し、一部には注釈も加えた。関係すると思われるロシア語も併記した。

ペトロワ1962の写真版を合わせてみていただけると一番良いのだが、北村誠一・佐藤和之1989でも構わない。これらと付き合わせて見ていただけると、本文がよく分かり、『レクシコン』がどれほど素晴らしい方言資料であるかが判明すると思う。『レクシコン』はおそらく東北方言の原形を示すものになり、東北方言研究には必須の文献になると思う。

この翻字・注釈の結果は、江口が2014年10月17日に北海道大学で行った近代語研究会発表要旨にも一部を掲載してあるので、ご参照願いたい。

もちろん浅学非才ゆえに間違いもあるだろうし、ロシア語の専門家から見ればわかりきったことなのかもしれない。しかし村山七郎『漂流民の言語』が出版されてすでに半世紀を過ぎようとしているにも関わらず、『レクシコン』を十分に活用した研究を見ないのである。こうした現状に一石を投ずることになれば幸いである。

なお紙幅の制限から、注釈は連載形式とする。キリル文字日本語をカタカナへ標準化する方法は江口『ロシア資料による日本語研究』(和泉書院)に準ずる。

諸賢のご批判を乞う。

本稿は平成21年〜平成24年度文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(C)「ロシア資料の文献方言史学的研究」(課題番号22520468)の支援を受けた。青森県下北市佐井村の渡邊隆一氏、長福寺ご住職ご夫妻のご教示を受けた。記してお礼申し上げます。

また平成26年〜平成28年度「十八世紀青森下北方言を反映するタタリノフ『レクシコン』についての文献方言史的研究」(課題番号26370536)の支援も受けた。

また平成26年10月17日第317回日本近代語研究会(北海道大学文系共同講義棟2番教室)で「A.タタリノフ『レクシコン』の語彙と音韻現象」として口頭発表した内容を一部含んでいる。

また快く写真撮影の御許可をくださった北海道大学総合博物館に記してお礼申し上げます。

(通し 番号)	ペト ロフ 1962 の番 号ab	Пороссийски		По японски	Литерати	
		(ロシア語)	(ロシア語の 訳)	(日本語)	書き方	(キリル文字日本語の転 写と意味)
【a】						
1	002a	А б ъ и е ; с ь к о р о ; в т о \ т / ч а с ь	(さよなら ; まもなく ; ただちに)	ф а я г у ф а я г у	はやく はや く	ファヤグ ファヤグ (早 く 早く)
2	002a	А ще е же л ь и	(もし もし ～ならば)	キリル文字日本語なし	あ志、あ	
*日本語はロシア語の発音をそのままひらがなにしたものか。						
3	002a	А ще б ы	(もし)	キリル文字日本語なし	ひらがな日本語なし	
4	002a	а н г е л ь	(天使)	к в а н н о н ь	くわんのん	クワンノン(観音)
5	002a	а д а м ь	(アダム)	б у п п о	ふぼ	ブッポ(仏法)
		*ペトロフ1962論文は「父母」と解する。村山1965は「仏法」とする。語頭が濁音ブであること、п п 表記の促音があること、キリル文字日本語がp 音に相当していることからみて、村山1965説「仏法」が正しいと思う。				
6	002a	а д ь	(地獄)	д ж и г о г у	ちこく	ヂゴグ(地獄)
7	002a	а с ь	(えっ、何だっ て？ 応答 返事)	ф а и	はい	ファイ(はい)
		*村山1965は「灰」とするが、ロシア語と合致していない。『18世紀教会語辞典』にはロシア語「а с ь = о т з ы в ь」(反応、応答)がある。				
8	002a	а з ´ б у к а	(アズブカ)	і р о ф а	イロは	イロファ(伊呂波)
9	002a	а н ´ б а р ь	(倉)	к в у р а	ひらがな日本 語なし	クウラ(倉)
		*村山1965には欠。				
10	002a	а ч а г ь	(囲炉裏)	т е г о	てこ	テゴ(梃子)
*ロシア語「о ч а г ь」参照。о → а。						
11	002a	а р ´ б у з ы	(西瓜)	с ь и г в а	すいくわ	スイグワ(西瓜)
12	002a	а х а п к а	(一抱え)	キリル文字日本語なし	ひらがな日本語なし	
*『新スラヴ日本語辞典』には「а х а п к а = и ч в а」(イチワ)がある。						
13	002a	а т а м а н ь	(コサックの 隊長)	о г и д а н у с у б й д о	をきた ぬす みと	オギダ ヌスビド(大き な盗人)
		*村山1965では「をきたぬすみ」と日本語を翻字するが、「と」が抜けている。				
14	002a	а т а м а \ н / н а я п а р т а	(コサック集 団)	ю к с а ш ь р у ф т о	ゆくさ しる ひと	ユク°サ シル フ°ト (戦する人)
		*「ю к з а」にもみえるが、音環境からみてサが有声化するのをおかしいので、「ю к с а」と読む。有声 化の条件については江口2014近代語学会発表要旨参照。				
15	002b	а и с т ь	(魚名)	б а ж ь и	はち	バジ(めばち)
		*ロゴワ・オリガの卒業研究2003「タタリノフによる露日『語彙集』」(岩手大学人文社会科学部 地域文化 基礎研究講座)に次のようにあると言う。「ダーリの辞典には「а и с т」という単語のもう一つの意味が書 いてある。それは魚の名前である。現代語ではやはり使わないのである。そして広辞苑には「はち」[ママ]の いみの一つはマグロの一種、メバチの別称だということが書いてある。それでタタリノフの「а и с т」は、 おそらくその魚の意味としてとらえた単語である」という指摘がある(北村一親2009「18世紀のアンドレイ・ タタリノフ露和語彙の研究(第2部)」『アリテス リベラレス(岩手大学人文社会科学部紀要)』84参照)。 『ТОЛКОВЫЙ СЛОВАРЬ ЖИВОГО ВЕЛИКОРУССКАГО ЯЗЫКА』で、 「Р ы б а а и с т ь к а с п . с у х о ш а в а я , г о л о в а с т а я б е л о р ы б и ц а .」の箇 所と思われる。その意味は「カスピ海の魚名アイスト。脂が少なく、頭が大きいマス類の魚」であろう。ロ ゴワ2003のとおりで魚のバチの有声化した語形であろう。				
16	002b	а . а д ´ в и с ь п о в е р е н е с т ь	(代理の手形)	а д а й н и я р ь и м а с ь т о р а ш а р е	あたいに と りに やら しゃれ	アダイニ ヤリマス° トラシャレ(替りにやり ます 取らしゃれ)

		*村山1965ではひらがな日本語を「あたいにとりまやらしやれ」と翻字し、脚注では「代わりにやります。とらっしやれ」の意」とする。ロシア語の訳は「富くじ、福びき」とするが、どうだろうか。まず翻字は「あたいに とりに やらしやれ」と読むのが良いと思う。次に「日本方言大辞典」に「あたひ 代償。かた」とあり、「秋田県鹿角郡」が挙っており、下北方言でも同様であったと考えて、「代償に与えます、お取りなさい」の意と考えてはどうだろうか。				
17	002b	а \т / вес ь	(墨壺 下げ鉛)	с умй зу б ѡ	すみつぼ	スミズボ(墨壺)
		*村山1965は「атвес ьотвес ь」[下げ鉛(サゲナマリ)]か」とする。卓見であろう。この文献のロシア語は現代語共通語o のものがa になっているのが、この資料のロシア語の著しい特徴の一つである。				
18	002b	а		キリル文字日本語なし	ひらがな日本語なし	
【6】						
19	002b	бо г ь	(神)	фо до ге	ほとけ	フォドゲ(仏)
20	002b	бо г ь о те ц ь	(父神)	фо до ге то д ѡ	ほとけ とと	フォドゲ トド(仏父)
21	002b	бо г ь сы н ь	(神の子)	фо до ге м ус ´ ко	ほとけ むすこ	フォドゲ ムス´コ(仏息子)
22	002b	бо г ь ду \х / свя ты и	(聖霊)	фо до ге но и г й	ほとけのいき	フォドゲノ イギ(仏の息)
23	002b	бо же с ´ тво	(神)	фо до ге но го до	ほとけのこと	フォドゲノ ゴド(仏の事)
24	002b	бо же ст вен ное	(神の)	фо до ге но	ほとけの	フォドゲノ(仏の)
25	002b	бла же н ь ч л в к ь	(祝福された人)	ю й ф то	よい ひと	ヨイ プ´ト(良い人)
		*ロシア語「человечеств」(人)参照。				
26	003a	бла же н ь ц ы й	(祝福された)	キリル文字日本語なし	ひらがな日本語なし	
27	003a	без ´ греш ны и	(罪のない)	ба жй а да рй го за ра на й в то	はち あたり こさらないひと	バジ アダリ ゴザラナイ フ´ト(罰当たりごさらない人)
		*ロシア語「грешный」(罪深い)に否定の接頭語「без」がつく。				
28	003a	без по мо щ ны и	(頼りない)	те зи да й го з а ра на и	てつたい ござらないひと	テジダイ ゴザラナイ(手伝いごさらない)
		*ベトロワ1962論文ではこの語の翻訳方法について、複数の単語を利用して直訳したとする指摘がある。				
29	003a	без по ле з ны й	(役立たない)	キリル文字日本語なし	ひらがな日本語なし	
		*ロシア語は「полезный」(有益な 役に立つ)に否定がつく。				
30	003a	без по л ь з ы	(恩恵のない)	キリル文字日本語なし	ひらがな日本語なし	
		*ロシア語は「без+гпольза」(効用、利潤)を参照。				
31	003a	без на де ж ны й	(希望のない)	а де ни нн шй ра на и	あてにん しらない	アデニシ シラナイ(当て人知らない)
		*ロシア語「надежн」(希望)に否定の接頭辞がつく。村山1965脚注では「adeninの最後のnは後から書き加えたもの[当にしろれない]か。」とし、また「当てにならない、信用できぬ」と訳す。				
32	003a	без мо л вй е ; мо \л / ча нй е	(噂のない ; 沈黙)	са бе ру на й	さべる ない	サベルナイ(喋らない)
		*ロシア語「молва」(噂)に否定の接頭辞がつく。				
33	003a	без во дй е	(水分のない)	мй н зу го за р а на й	みつ こさらない	ミンズ ゴザラナイ(水御座らない)
		*ロシア語「мйнзу」の2文字目は「у」の上から「й」を書く。また、ズに前鼻音があると思われる。				
34	003a	без ´ до \ж / дй е	(雨のない)	а ме го за ра н ь	あめ こさらない	アメ ゴザラン(雨御座らん)
		*ロシア語「дождь」(雨)に否定がついた語形。				
35	003a	без ´ вре ме нй	(永遠)	из де му на и го до	いつて むないこと	イズ´デムナイゴド(何時でもない事)
		*村山1965翻刻に欠落。ロシア語は「без+время」(否定の接頭語+時間)を参照。				

36	003a	безталан'ный	(不幸)	шйя вашенай	せやわせない	シヤワシユナイ (幸せない)
		*ロシア語「таланный」(幸せ)の否定。				
37	003b	бестужей	(恥知らず)	фазгаший гар анаи	はつかし か らない	ファズ°ガシ ガラナイ (恥ずかしがらない)
		*「бес+тужить」(否定の接頭辞+悲しむ、嘆く)を参照。村山1965は「恥ずかしがらない」と訳す。				
38	003b	бег'лой	(流出)	адари:нйгер у	あたり:にけ る	アダリ ニゲル (当たり 逃げる)
		*ベトロフ1965では「重労働によって逃亡すること」でシベリア方言であるとする。				
39	003b	бестысты\д/нои	(高貴な人)	фа\з/гашийгу фто	はつかしく ひと	ファズ°ガシグ フ°ト (恥ずかしい人)
		*村山1965ではロシア語部分を「恥知らずの人」と訳し、カタカナに標準化した部分ではキリル文字日本語を「ファズガシグ[ナイ]フ°ト」とし、訳が矛盾している。この語は「бес+ты+стыднои」であって、「бес」は「без」が無声子音の前で無声子音化した表記と解釈できる。「欠如を表わす接頭辞+代名詞+恥ずかしい」の複合形式で「高貴な人」としてはどうだろうか。				
40	003b	бурь	(平底の輕帆 船 氷上帆走 ソリ)	уге	うけ	ウゲ(浮け)
		*村山1965では「浮標」とする。この資料ではエ列とイ列が交替する例がよくみられるので、「ウキ」がエ列へ交替した語形とみなしていると思われる。「浮ける」で「船を浮かべる」の意があるので、その名詞形かもしれない。				
41	003b	бумага	(紙)	кай	かみ	カミ(紙)
42	003b	буду	(ある いる 行く 来る)	кймасъ	きます	キマス°(来ます)
43	003b	будчай; ежели	(あること; もし)	キリル文字日本語なし		ひらがな日本語なし
44	003b	бо\л/ванъ	(型)	када	かた	カダ(型)
45	003b	барышь	(利益)	ри	り	リ(利)
46	003b	барабанъ	(ドラム)	тайго	たいこ	タイゴ(太鼓)
47	003b	барабаниятъ	(強打)	тайго ужима съ	たいこ	タイゴ ウジマス° (太 鼓打ちます)
48	003b	баранъ	(羊)	фйцужи	ひつち	フィツジ(羊)
49	004a	башмаки	(靴)	шегда	せくた	シェグ°ダ(雪駄)
		*『日本国語大辞典』では『言経卿記』に「せきた」の語形がある。				
50	004a	баня	(風呂)	юя	ゆや	ユヤ(湯屋)
51	004a	басъня	(寓話)	на\н/зо:муг аший	なんそ°;む かし	ナンゾ;ムガシ(謎 昔)
		*村山1965ではこの項目を二分割して「ナンゾ」(寓話)、「ムガシ」(寓話)として別項目で掲載する。索引作成のためであろうが、「寓話」全体が「ナンゾ ムガシ」なのかもしれない、誤解を招くかもしれない。				
52	004a	бас'нос'ловие	(寓話を語る)	на\д/зо(マ)к йгашешшаре	なそ きかせ さしやれ	ナヂョ[ナゾ] キガ シェツシャレ(謎 聞か せしやれ)
		*キリル文字日本語は「на\н/зо」(ナンゾ)かもしれない。				
53	004a	барабан'щикъ	(ドラマー)	тайго ужи	たいこ う ち	タイゴ ウジ(太鼓打 ち)
54	004a	болтъ	(ボルト)	квугй	くき	クウギ(釘)
55	004a	бо'тъ	(船)	тайшенъ	たいせん	タイシェン(大船)
56	004a	болото	(湿原)	я\д/жи	やち	ヤヂ(谷地)
		*ベトロフ1962論文で「ヤチ」がなぜ「湿原」や「井戸」に当てられているのかを説明している。				
57	004a	борона	(まぐわ)	キリル文字日本語なし		ひらがな日本語なし
58	004a	бороню	(まぐわ)	キリル文字日本語なし		ひらがな日本語なし
59	004a	балатйруютъ	(投票して選 ぶ)	торйгаимасъ	ひらがな日本 語なし	トリガイマス°(取り替 えます)
		*村山1965に欠。ロシア語は「баллотивать」(投票して選ぶ)を参照。ロシア語o→a				
60	004a	бьютъ	(叩く)	тадагймасъ	たた°きます	タダギマス°(叩きます)

61	004a	богатею	(豊かな)	кане мажйма ＼с／(マ)	かね なりま す(マ)	カネ マジマス° (金 待ちます)
		*「金 増します」だと語中シが有声化をおこしていることになり、不適格である。村山1965では「「かねもちます(金持ちます)」の誤記か」とする。				
62	004b	бой баталия	(戦い)	югвуса	ゆくさ	ユグウサ(戦)
63	004b	боюсь	(恐れる)	оканай	をかない	オカナイ(おっかない)
		*ロシア語は「бояться」(恐れる)を参照。				
64	004b	бойт'ся	(恐怖)	оканагару	をかなかる	オカナガル(おっかながる)
65	004b	био\т/ся	(恐怖する)	оканаримасъ	をかなります	オカナリマス° (おっかなります)
		*上書きがあって読みにくい。「биотся」の「ю」の上から「о」を書き、「биотся」と書いてあるかもしれない。村山1965では「okanagari masの誤記であろう」とする。				
66	004b	брйтва	(カミソリ)	кайсорй	かみそり	カミソリ
67	004b	бреюся	(剃る)	ками сурйма ＼с／	かみすります	カミ スリマス° (髪剃ります)
		*ロシア語「бреются」(剃る)参照。				
68	004b	боронюся	(まぐわで均す)	(кенкваを横線で 消して) агару	あかる	(ケンクワを消して) アガル(上がる)
		*ロシア語は「боронить」(まぐわで均す)参照。最初、ケンクワと書いて消したのは「бороть」(打ち負かす)と間違えて訳したかもしれない。『日本方言大辞典』には「あがる ⑧仕事や行事などが終わる。また、仕事などが終わって家に帰る」意がある。				
69	004b	борода	(あごひげ)	фйге	ひげ	フィゲ(髭)
70	004b	бородавка	(イボ)	і бω	イぼ°	イボ(疣)
71	004b	бранйтъ	(叱る のの しる)	варйгу юйма ＼с／	わりく ゆイ ます	ワリグ ユイマス° (悪く言います)
72	004b	бранйлъ	(叱られた)	варйгу юйма шта	わりく ゆイ ます(マ)	ワリグ ユイマシ°タ (悪く言いました)
73	005a	бросаютъ	(投げる)	нагемасъ	なけます	ナゲマス° (投げます)
		*「бросить」(投げる)参照。				
74	005a	бросйлъ	(投げた)	нагемашта	なけました	ナゲマシ°タ (投げました)
75	005a	братъ	(兄弟)	оягада	をやかた	オヤガダ(親方)
		*『日本方言大辞典』では「オヤカタ=兄」で本例が用例として採用されている。				
76	005a	большей братъ	(長男)	окй оягада	をき をやか た	オキ オヤガダ(おっ きい親方)
77	005a	бо\б/рь	(ビーバー)	ракъко	らこ	ラク°コ(らっこ)
78	005a	барсъ	(豹)	тора	とら	トラ(虎)
79	005a	береза	(白樺)	кабаногй	かは°のき	カバノギ(樺の木)
80	005a	бйсеръ	(ビーズ球)	тама	たま	タマ(球)
81	005a	баялайка	(バラライカ)	шамйшенъ	しゃみせん	シャミシェン(三味線)
82	005a	баялайшикъ	(バラライカ 弾き)	шамйше\н/ игу вто	しゃみせんひ くひと	シャミシェン フィグ ブ°ト(三味線弾く人)
83	005a	баба	(女性)	онагω	をなこ	オナゴ(女子)
84	005a	бабушка	(祖母)	баба сама	はゝさま	ババ サマ(婆様)
85	005b	берегу; ст'регу	(大切にする; 支える)	дайжйний шим а\с／	たいちに し ます	ダイジニ シマス° (大 事にします)
		*ロシア語「беречь」(大切にする)参照。				
86	005b	быкъ	(雄牛)	кодеушй	こてうし	コデウシ(特牛)
		*ペトロワ1962論文に雄牛「こてうし」の語誌の言及がある。江口2014参照。				
87	005b	бегаю	(走り回る)	фашеде арийг йма\с／	はせて あり きます	ファシェデ アリギマ ス°(馳せて歩きます)
		*「馳せる」は「走らせる」。				

88	005b	б а ш ´ н я	(塔)	ф й н о м й я г у р а	ひの みやく ら	フィノ ミヤグラ (火の 見櫓)
89	005b	б е р е г ь	(岸)	к а в а б а д а	かわはゝた	カワバダ (川端)
90	005b	б о ч к а	(樽)	т а р у	たる	タル (樽)
91	005b	б о ч к а р ь	(桶屋)	о г е я	をけや	オゲヤ (桶屋)

(続く)